

令和6年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：21004
学校名：中央小学校

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 立幅跳び 反復横跳び 長座体前屈 ○前回の記録より下回った種目 握力 上体起こし	・男子も女子も握力だけは全国平均を上回っているものの、前年度と比較すると低下している。男子では上体起こし、女子では50m走といった比較的筋力を要する運動が低下している。筋力をアップする運動が必要である。
体力・運動能力 <女子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 長座体前屈 立幅跳び ○前回の記録より下回った種目 握力 50m走	・全国平均を下回っているものの、立ち幅跳び、反復横跳び、長座体前屈については前年度より上回っている。本校の取組の成果が表れてきていると考えられる。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	○「運動やスポーツをすることは好き」「体育の授業は楽しい」と回答する子の割合 男子 R5 94%、R4 93% 女子 R5 88%、R4 88% ○体育の授業を除く1週間の総運動時間が60分未満の「ほとんど運動をしない子ども」の割合 男子 R5 7.3% R4 6.7% 女子 R5 12.9% R4 11.3%	・体育の学習を除く運動をほとんどしない子の割合が増えてきている。体育の学習では筋力や持久力を付ける運動を取り入れるとともに、運動の機会を増やしていく関わりをしていくことが必要である。

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実
--------------	------------------------	------------------------------	------------------------------

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・中央小オリジナルカリキュラムの作成（各学年の発達段階に応じた学習内容と6年間の内容を見通したカリキュラム） ・各単元の学習課題と個の課題を明確にした授業づくりと課題解決のための手立てをスキルとして身に付けていく授業。 ・運動が苦手な子に対する支援の充実。 ・準備運動とスキルアップタイムの統一。 ・授業の効率化と安全面の教化。（マット、跳び箱週間による運動環境の整備） ・縄跳び活動の充実。 ・外部人材の積極的な活用。 ・運動量の確保（時間や回数などを具体的な数字で提示） 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後のグラウンド開放（運動機会の創出・仲間とのつながり） ・長期休業期間のグラウンド開放 ・ICTを活用した長期休業期間の活動例の提示 ・体育の授業で、用具・器具の使い方を身に付けるとともに、ゲームのルール工夫の仕方を身に付ける ・外部施設の積極的な活用（北ガスアリーナ・豊平側河川敷） ↓ ・学校周辺施設利用の推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する指導の手引きを活用し、全体計画に基づき指導の充実を図る。 ・児童の実態に基づいた食の指導。 ・学校給食を活用した地産地消や家庭と連携した食育の指導。 ・フードリサイクル等による食と環境を結び付けた学習の充実。 ・発達段階に応じたいのちの学習 ・ヘルスケア事業の活用（中央保健センター） ・児童の実態に基づいた健康な生活に関わる指導 ・キャリアパスポートを活用し、自己肯定感（心理的安定）を高める指導
---------------	--	---	--

家庭・地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の指導、食に関する情報等をお便りやホームページで提供。 ・健康カード等を活用し、児童の健康状態について学校と家庭の情報共有。 ・外部講師の活用（中央保健センター等）。 ・地域スポーツクラブのインストラクターに出前授業を依頼。 ・地域スポーツクラブ、少年団に授業補助を依頼。
---------------------	---